

### ⑩国営みちのく森の湖畔公園

国営みちのく杜の湖畔公園は東北地方で唯一の国営公園で、釜房湖のほとりに設置されている。東北自動車道、山形自動車道からのアクセスも良く、近くには秋保温泉などの観光地もあることから、宮城県内外から多くの観光客が訪れる。

■区分	イ	(設置目的)	—
■所在地	宮城県柴田郡川崎町		
■面積	計画面積	647.4ha	
	開園面積	647.4ha	

### ■広域図



### ■年表

S56.4	国営釜房湖畔公園(仮称)として事業採択
S57.12	国営釜房湖畔公園(仮称)として都市計画決定告示(647.4ha)
S59.10	工事着工
H1.8	南地区「文化と水のゾーン」一部開園<62.1ha>
H2.7	「あだこた」供用開始(0.8ha)<62.9ha>
H6.7	みちのく公園管理センター竣工(2.0ha)<64.9ha>
H7.6	文化と水のゾーン「花木園」供用開始(4.0ha)<68.9ha>
H9.7	文化と水のゾーン「前川展望台」供用開始(0.6ha)<69.5ha>
H9.10	文化と水のゾーン「ふるさと村」一部供用開始(6.4ha)<75.9ha>

H10.11	文化と水のゾーン「多目的ホール
H12.4	文化と水のゾーン「花畑」供用開始(7.2ha) <83.4ha>
H13.5	入園者累計 500 万人達成
H14.4	「湖面・湖畔のゾーン」一部供用開始(14.1ha) <97.5ha>
H15.4	「湖面・湖畔のゾーン」一部供用開始(158.1ha)、管理エリア
H15.7	健康と緑のゾーン「エコキャンプみちのく」供用開始(27.8ha) <283.7ha>
H18.4	健康と緑のゾーン「自然体験学習エリア」供用開始(3.8ha) <287.5ha>
H20.5	健康と緑のゾーン「風の草原」供用開始(17.6ha) <305.1ha>
H21.5	入園者累計 1,000 万人達成
H23.3	東日本大震災(被災による約1ヶ月の休園)
H23.7	健康と緑のゾーン「みちのく自然共生園」供用開始(16.8ha) <321.9ha>
H26.6	「森と環境のゾーン」供用開始(131.3ha)、「湖面・湖畔のゾーン」供用開始(194.2ha)し全園開園<647.4ha>
H28.5	入園者累計 1,500 万人達成

#### ■コンセプト

テーマ	豊かな自然とのふれあいを通じて人間性の回復向上
理念	釜房湖の豊かな水、丘陵の緑、蔵王連峰の展望など、美しい環境との調和を図りつつ、自然とのふれあいを通じて人間性の回復向上に寄与しうること
基本方針	

南地区 文化と水のゾーン	時のひろば	かつて東北地方がその中心だった縄文文化の土器の模様をモチーフに、「混沌の中から生まれた生命の根源と未来に向かって力強く成長してゆく悠久の時の流れ」をコンセプトとする巨石のひろば。
	彩のひろば	季節ごと 10 万株の花々が咲き誇るひろば。
	水のひろば	やすらぎの池、ひょうたん池 6,700 m <sup>2</sup> の大きな池と、水辺の広い芝生でくつろげる場所。
	わらすこひろば	ジャンピング・ドーナッツ、ローラースライダー、ちびっこドーム、せせらぎ水路、すべり台、カート、ボール遊具、ターザンロープ、ロープネット遊具 幼児から小学生まで楽しめる、縄文のデザインをイメージした遊びの空間。など、1 日遊んでも遊びきれないおもしろさが満載。

	いも煮会ひろば	木製遊具、樹林地	みんなの笑顔があつまる場所。いも煮会やバーベキューを楽しめる。
	湖畔のひろば	芝生広場、3on3 バasketコート、インラインスケートコート、巨大ボール、貸しポート乗り場	巨大ボールや貸しポートなど子供も大人も楽しめる遊具がある。インラインスケートや3on3 バasket、グラウンドゴルフ、サッカーも楽しめる。
	憩いの森	いこいの森レストハウス、遊具貸出所、クヌギ林、梅林、ディスクゴルフコース	四季折々の表情を見せるクヌギ林の中や、春は梅林で梅の花を見ながらのんびりと散策できる。
	ふるさと村	移築古民家、だんだん畑、多目的ホールふるふる、水車、樹林地	東北 6 県の特徴ある風土と歴史に培われた、みちのくの暮らしの文化を伝える古い茅葺の民家を移築したエリア。
	お花畑、花木園、南ゲートハウス売店		
北地区 健康と緑のゾーン	風の草原	多目的コート(テニス、フットサル、バスケボール)、ドッグラン、健康ひろば(パークゴルフ場)	蔵王連邦を背景に、8ha の広大な草原では色々な遊びを楽しむことができる。
	みちのく自然共生園	自然共生情報館、みちのく知恵体験舎、家畜舎、放牧地、耕作地、展望野草園	東北地方の自然共生文化を体験しながら学ぶエリアです。農業体験や家畜とのふれあい体験のほか、蔵王を背景に野の花が咲く広大な花野の風景が楽しめる。
	エコキャンプみちのく	管理センター、集会棟、コテージ、オートキャンプサイト、フリーテントサイト、温泉棟、トイレ・シャワー棟、炊事場、学習棟、遊歩道、多目的広場	人気のオートキャンプからコテージ、フリーテントスペースなど幅広いアウトドア活動が楽しめるキャンプ場。
	北ゲート、リサイクルセンター		
里山地区 森と環境のゾーン	地域交流館「小野分校」、交流体験広場、里山伝承の森、林間探勝林、谷戸の湿地、自然生態園、リュウキンカの谷、カタクリの里、ゴヨの森、森の楽校		森の健全化のための樹木管理を行うとともに、里山の自然や文化を保全、継承しながら、環境学習に活用している。







<入園料>

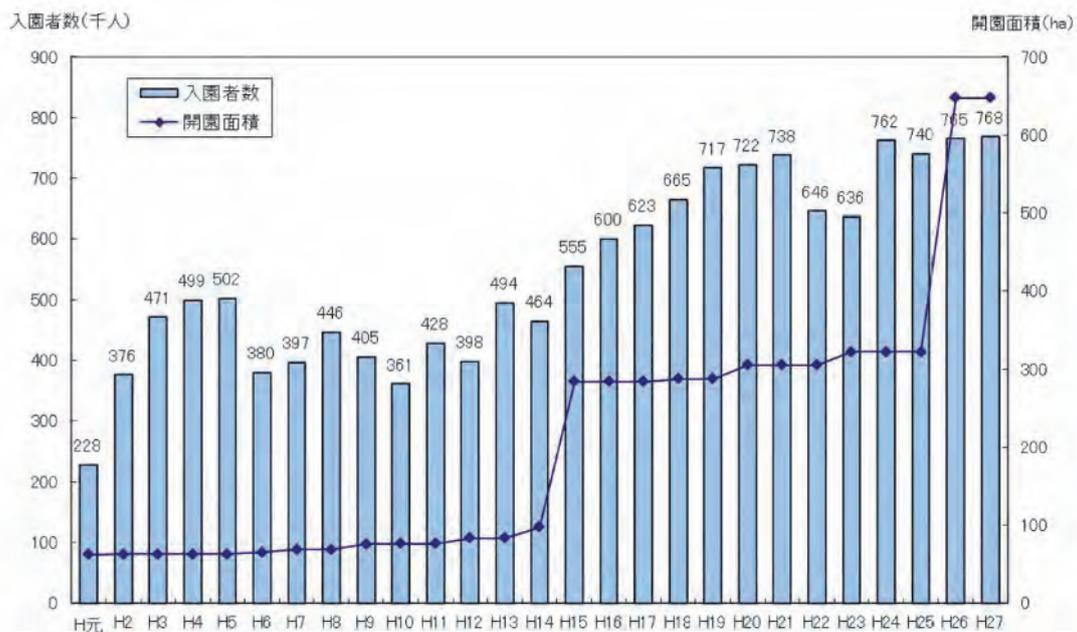
	一般	団体	年間パスポート券 利用料金
大人(15歳以上)	410円	290円	4,100円
子ども(小・中学生)	80円	50円	800円
シルバー(65歳以上)	210円	210円	2,100円

<駐車場>

	大型車 (30人乗り以上)	普通車	二輪車
1回	1,030円	310円	100円
年間パスポート券利用者駐 車料金(1回)	—	260円	80円
南地区駐車場台数	23台	1,415台 (内、身体障がい者用 30台)	20台
北地区駐車場 (風の草原駐車場、みちのく 自然共生園駐車場、エコキ ャンプみちのく駐車場、ドッ グラン駐車場)	10台	443台 (内、身体障がい者用 16台)	—

■管理

利用者数	768,000人(H27)
マスコミ報道等件数	379件(H26)
ホームページのアクセス数	534,673件(H26)



<ボランティア> (平成 27 年 6 月末現在)

ボランティア名	登録人数
釜房ろばたの会	25 名
ふるさと村の民話の会	31 名
昔遊びの会	8 名
自然解説ボランティア	23 名
ふるさと村案内人	9 名
みちのく自然共生園ボランティア	44 名
エコキャンプみちのくアウトドアリーダー	28 名
里山ボランティア	29 名
合計	197 名

<H29 重点管理項目>

植物管理

○自然環境の保全

- ・自然共生園では、サクラソウを中心に、東北地方に自生している野草を育成し、東北地方の半自然草原（牧草地や飼料を採取する草地）や湿地を再現した。
- ・整備前の土地には、東北地方に自生している野草はほとんど存在しないが、川崎町を中心に公園周辺から野草の種子を譲り受け、90 種約 7 万株を移植した。
- ・播種や育苗、除草等はボランティアや専門家が中心となり保全活動を行っている。
- ・数種類の種子を採取した近隣の湿地は、造成工事により埋め立てられ、結果として自然共生園が種の保全場所となった。

○ストック効果の最大限の発揮

- ・みちのく公園から釜房湖や蔵王連峰の四季折々の優れた風景が眺望できるよう、園内の繁茂した樹木を伐木する。

地域連携

- ・「豊かな自然とのふれあいを通じて人間性の回復向上」の理念に沿うよう、引き続き自然環境の保全と活用、及び市民参加の推進を図る。

## 施設管理

---

### ○公園の魅力の増進

- ・超高齢化社会を迎えるにあたり、来園者が気軽に公園を周遊し、釜房湖畔や蔵王連峰の優れた景観をより身近に体感できるよう、園路についてはユニバーサルデザイン化を進める。
- ・さらに、利用者が、既存建築物をより快適にくつろげる空間として利用できるよう、必要な対策を行う。

### ○長寿命化計画に基づく計画的な施設修繕・改修と転換

- ・長寿命化計画に基づく、計画的な施設修繕・改修とあわせ、利用者アンケートや意見箱等で把握した公園利用者のニーズや今後の利用形態を踏まえた公園のリニューアルを進める。
- ・わらすこひろばにおいては、遊びと休憩機能を集約し、長寿命化計画に基づく施設修繕・改修と合わせ、利用動向を踏まえた遊具への転換を図る。

## 環境保全

---

### ○里山の多様な自然環境の保全、活用の取組を推進

- ・国蝶であるオオムラサキをはじめ、多様な動植物が生息・生育できるような自然環境の保全、復元を進めるとともに、地元小学校等課外授業の学習の場を提供し、環境保全に対する関心を高める取組を推進する。
- ・公園内で発生したせん定枝や除草した草をチップ化、堆肥化して再利用する取組を引き続き行い、循環型社会の構築に貢献する。